

可相違

以上

八月

時代官中渡之部

寛永十九年八月

差

- 一 此以前は 作付の法は成し候跡石取寄帳に候可  
中付し事
- 一 當年より至る酒造り中身交は但通し町を拾別  
 係包く六斗酒賣出る至る百姓と賣中身交は差賣  
中付るハ酒及至る不取取中事
- 一 當年ハ温枕切麦藁麦より赤麹釀成不賣賣  
仕る事
- 一 當年ハ豆腐仕る事

一 當年田畠耕作、候念を入仕付の帳、面代受、  
内一村切、候、事付の事

一 當年と大切、年、流、百姓、む、と、を、い、ぬ、や、に、可  
り、付、い、不、付、用、候、を、い、と、多、秋、を、お、し、を、り、  
均、均、百姓、建、或、不、被、い、候、と、均、均、中、付、の、事

一 互、百姓、食、心、事、雜、穀、を、用、米、米、何、く、生、可、い、ぬ  
振、より、事、付、の、事

一 功、中、能、い、無、正、年、貢、納、い、江、水、江、戸、以、城、米、之、納、付、分、能  
と、致、實、懸、米、入、用、多、を、い、ぬ、振、名、之、組、代、之、候、可  
中、付、分、科、名、依、法、成、候、仕、小、百姓、建、或、致、い、り、有、く、

振、り、て、ハ、實、懸、上、名、之、組、代、由、事、中、付、い、不、食、候、  
か、ぬ、ハ、代、受、元、之、為、致、度、事

一 本年、貢、米、納、く、事、中、付、能、組、孫、孫、之、振、り、能、  
名、を、入、り、付、の、事

一 功、後、中、流、り、無、口、申、可、流、没、入、用、候、小、百姓、情、を、傳、  
品、を、書、付、名、之、組、代、判、を、仕、候、面、之、代、押、切、の、為、  
流、至、り、中、い、候、小、百姓、此、仕、入、候、於、至、り、實、懸、  
と、上、也、り、付、の、事

一 流、初、を、尋、青、賣、至、候、入、中、召、交、事

右、之、後、面、之、流、法、度、不、付、外、之、候、是、等、存、在、候、後、世、間

くわらさのたのふらるて付い

又月

寛永二十九年二月

- 一 毎年春夏西ノ時代友ノ在城堤川際ホ一山菅信  
念を入とんかノ事付一并表傳一若無を元可  
見届事
- 一 秋中友吾一而一見止一田畑ノ振ニ委細致見分  
有御納不ウ付事
- 一 才上能百姓も田代を買元流成身所不成者之

田島令法印物ノ才上不之成ノ方白法田島表賞之  
為信の事

- 一 才上不之成百姓ノ法代友給ノ入百事ノ波多自之  
上之る幾難續之のよはん合食物取借ノ身所持  
立り取之入心事

- 一 前原名之想百姓法度ノ統給ノ中付せあね  
宵極ノコウ付し事

- 一 かい遠背し候至一者ノハモ才上意一日夜を定  
為道無堤川際又ハ竹木を植之て外可一たのよ可  
成山菅信ノ付一科重ノのは事付不之辨一或之

死葬或等会仁多處下中付事

一 寺々可くは月付て事々一乃仕至熟代友ハ可為哉

夜ハ条々代あゝ西上若原入各中付事

右條ハ今夜也 作お少乃云河以二ハお事云々

寛永二十年未三月十日

同年

士民仕至荒

一 庶屋惣百姓共自今以後不熟之身家能名仕但  
所屋ハ條々代既作友ハ各處を結可付事

一 百姓ハ衣類ハ以方より如所法及庶屋も妻も子も細  
布本綿服百姓も布本綿斗ハの着ハけ外ハあり常不  
もいハ了中乃要事

一 庶屋惣百姓共ハ衣類ハ紫紅梅ハ深呂番ヤけ外ハ何  
色ハ然れハけ外ハ一ハ深ハ乃要事

一 百姓ハ食也常々雜穀を食一ハ米を根又吹公取  
り中乃要事

一 寺々可くハ温純切妻素麵蕎麥切僧既更腐菜  
又穀ハ貴ハぬ少乃高賣ハ用ハ事

一 寺々可く酒一切作廢ハハ并他可より買入高賣

仕る事

- 一 市町におむさし酒のむへうと事
- 一 耕作田畑の多し少し致事をも油頭元金を入  
この中より致事金に不慮成百姓ありハ實業とし上  
出事この中付事
- 一 是人身に百姓無事耕作成急の時と人租と不  
及中より一村におむさし助金田畑の多し少し  
可仕事
- 一 又穀の貴く成りたること故當年より不田畑  
新田畑一切仕る事

一 名主惣百姓男女に系物信事

- 一 他よりお越田地を不事耕作成急の時と人租と不  
中よりお越田地を不事耕作成急の時と人租と不  
曲変より付事
- 一 田畑承代し賣買仕る事
- 一 百姓年貢方為訴訟をあげ欠落仕る宿を致  
事この中よりお越田地を不事耕作成急の時と人租と不  
為事
- 一 地代代官仕る事惣百姓地無事成急の時と人租と不  
皆漸致し事とし上ハお越田地を不事耕作成急の時と人租と不

北代友構有旨為事

一 佛事系礼末之或之不似合于身依據仕為事

一 江戸惣構之内の木草并依為之馬之付中ニ系

中為事

右ノ條ノ在ノ可ノ限相觸向後急方付有旨為事  
常ノ入念を以て取致也

寛永二十年未三月十日

寛文六年年四月

差

一 御代友不申切ノ見申了堤川除亦無跡跡有旨付

永荒川成地不足過分有申口帳仕上代友

庇救多有之由申付は檢地有 作付為事

其吟味有旨一百姓御申有地不足之相立之由有旨

可為裁致事

一 近年貢方收納ノ令限之申來以令年仍元ノ有旨

翌年春表之内申勘定月限仕上三月十日

以心有旨皆減ノ事

一 近年貢方令限系減少為成上納仕上百姓申割

付其人前之委細之記一帳仕上并認領用是又

別帳に書載庶民小百姓に別紙を渡すに代り、  
凡そその年貢并法収入用亦庶民此等し刻  
付仕へ有毎夜後日簿簿有しつるを終つ細又別帳  
のれ中付事

一 所差中、町人百姓に代り庶民親親縁系  
亦と借し物仕る要他人に借し物亦所費借  
の候も可為云用事

一 年々所成ケ多下、所引つお考ため又いし  
年より所十ヶ年物成年、本年分帳仕上ケ  
但を年法元は代り、候も法元は年より

未を書上ケ可なり事

一 又幾月を以ては所入而も所事、亦伏見大坂志良  
堀西一を以てり、所付は法度し有る代り  
而も同事に之等付、勤を能相撲操り見  
物互に之を話人群集、仕候も可為云用し

附つけ、法務所増廣、所信守事  
一 代り庶民并所勘定元とも日新規縁組  
等仕る事

四月



延享八年八月

條々

- 一 民を困し勿也所代支し而く常に民に辛苦を  
能くし一飢を爲し然るに極まで中付事
- 一 國實を分時と民意をのたりの案付と已事業  
は懐て安し然るに食任諸事無き一極まで可  
中付事
- 一 民と上とをまよへる類有とのたりのは極まで上との  
又下を類事多し上下類たきやうに万事を  
入つて中付事

- 一 所代支し而く農業細く取知し此れは出入を極  
め中付し想して法事不任所代自身に勅後  
所要は然時と所代末しと私を以る事
- 一 而くし後にも及り所代も或る支配不し民私用  
はるるに并令限米隊民の里借用又は民の  
不中極は候らる中付事
- 一 堤川除及橋ふり外流る常にかまけおと及  
大破時支配不し事一可んか修理并百姓修繕が  
しと候とて候を恒きうちには庵内院とて海  
候に依は具願なく不及難候極まで中付事

一 甲、湯代友、而得整又、私領、在湯代、長、於、是、是、  
之、外、法、事、之、沖、以、常、之、各、在、入、湯、勘、定、  
之、所、振、可、之、心、事、

右、條、之、條、可、之、相、守、之、也、

延宝八年、同、八月、二、日、

備、中、

貞享三年、三、月、

公、儀、就、任、在、名、者、一、頭、江、戶、在、之、而、之、  
之、事、以、初、於、宿、之、人、多、初、一、申、之、事、以、五、一、頭、斗、  
之、事、以、初、之、道、中、并、論、之、以、之、而、用、之、以、入、條、

之、一、名、向、後、八、頭、持、之、人、是、武、三、人、斗、以、之、宿、次、  
持、之、以、振、之、以、付、申、之、堅、之、以、之、付、之、以、上、

三、月、

正、徳、曰、年、年、六、月、

條、

一 公儀、湯、用、之、事、八、丈、論、并、喜、之、為、百、姓、之、大、切、事、存、  
不、作、法、之、一、振、之、事、付、事、

附、流、人、之、輩、之、被、親、之、縁、之、事、書、状、并、喜、相、不、  
之、條、在、之、之、事、勘、定、之、事、之、書、状、被、見、之、上、

一 仁者又流人之者有之然親親未也狀語也ハ  
破地之附寄也年代を披見之録け方ハハ載上  
其後ハ也勘定下ハ達是又ハ為其處ハ分事

一 例年米減本綿觸ホ也ハ其依此具負惣百姓ハ  
割渡給事致シ給ハ之伸強ハのトクハ急務五集  
ハ是上ハ減内言下ハ依之秤ハ配分可ヤ付ハ  
勿論此年貞純モ亦可致收納事

一 鴉中ハ其為寛定田畑を開墾ウ然ホカハハ  
初ウセウ中ハ其若水障候アハハハ為其用勿論本田  
種を入耕作之ハ次稻芽ハ百姓モ其初ハ其ハ其ハ

一 百姓等ハ助合田畑不羨扱又ハ付事

一 鴉中百姓付事又ハハ出入控有ハハ先般有ハ  
役人等モ亦ハ年寄百姓モ其破地ハ附寄也年代  
並渡張ウ付ハ其為其給成候有ハハ其細書  
江ハ年代附寄ハ其振子吟味ハ上ハ勘定所ハ  
相付ハ其上ハ付事

一 江戸御城米トシテ法固ヨリお上ハ船モ外遭  
難凡支配ハ鴉ハ流寄ハ付トモハハ者并船取立合  
遭難凡ハ事ハ其終候其政ハ其又ハ付付ハ自  
外取取上ホハ其在致其對不澄米をぬ進ハ其ハ

中標のりは實態と之意及申事のり 何れ  
各ある堅このり付事

一 証より如法高初支配し得るが以て堅為  
此信止しる証入をこのり付事

一 如有未のり未代は年貢細し月を年平減細計六端  
を方より下しは代を得中二日は新法一日又  
を人の百倍し而し相海藻社兼小の種代相渡し  
賞潤何れも一切費用は仕事

附於得申第事不作法等し私し借物并他等  
利潤をかまへ賞元中りる安か後代中りる中付事

右條々堅のり者也

正徳四年六月十九日

大和  
冬後  
河内  
但馬  
相模

河原清公殿

享保六七年七月

田畑配分定事

高松石

地田寺町

右に定よりすくなく分は依信のよりを分有る浪  
跡の事も定よりすくなく分は依信の上は高松石  
地田二町よりすくなく分は依信のよりを分有る浪  
跡の事も定よりすくなく分は依信の上は高松石  
田畑配分定事或は男農奴人有くはは互有る耕作  
働る渡世波させ或は相懸し奉公人より有る事

百姓田畑配分依別紙証書付し登りくと各込依依取

檢見系は附事付し登り付しは縁依依り奉る而  
極まりは原政府し上利害と懸り奉る事

享保六七年同七月

田畑定事

光

一 承流地引りし内結入りし立返りし中事依依り地  
力高起返りし難竹幾年画りも打控重に請も有し由依  
く分り其村中大小百姓助合起立りし村中ありし  
或下は是吟味法著法りし村中起立りし村中ありし



鴻根村醫原吹唐と一との所蔵有りと云ふ  
上意も五斗の儀推察する致し件一おの向く効益  
より一も非凡儀と云ふ一の故に九斗の事

十一月

享保八年十一月

先年高札書おの各願令一候要領吟味一上水程集り候  
お伺別紙書付一趣申付候 仰付の旨向後此為  
を心おき事も自分入用と云う程に申筋も有一度に時長  
上納金滞りおのるゝハ厳ク申上水程吟味の旨も各々存候

依一此上米一を大抵申付一候拂不足之程一續り  
迄向水程迄一を一此後申付一入用おの各願令  
其申候事一 仰付の旨向後此為一  
債限分質素を用法事一に致候約此上米一同年一余分  
有一概致しおの付一入用一引当りおの旨一存余分有一たの  
年候一令もおのり年數長の上納一申程の事一に申候  
事も有一向一も年候一編一の上納一候事

同 九辰年閏二月

近年高札水程の旨おの各願令減り候は百姓共乳飲有為

此般又食糧貸亦有、今年、後仍免由某方、  
有、或凡水旱冠損亡、程も部斗事、  
より此般、後、  
我、  
被、  
亡、  
重、

同日

享保九辰年八月

此代友也

今、  
致、  
是、  
而、  
遠、  
任、  
以、  
支、



不任仕備亦取改強く支配不之徳の在りて其く是見分  
常後より一う先時夜この世何い由強出九く後其世徳  
是吟候候く清九くお増の和く下中付い以上

八月

享保十三年十月

元

一 各所代官不取亦一候由是年より其相納管に引  
て其意小相成に口来たに其今と一取其ゆかハ名所由為  
同前この其世徳何れを口来し其今と一其口根六

除一此勘定ハ別扱よりはね之い

一 口来し候不途小相成一其口来令張書分と事と十月  
中より其あい

一 口来令張書元之れハ其令免以上納書元之れハ其令  
納し候り其後其令候事と十月申より其何い以上  
令納来納し其う及是其い

一 但別生世何ハ口相

一 但別其尾相持其代

一 上列其樂能地山口徳

一 八丈海口徳



書面し刻金をお借言を減らさね候に

但此代官候に 候旨の旨し此元整金と向後お出に

一 此代官候に候旨の旨し此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に

一 此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に

より上納候に候旨の旨し

一 此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に

一 此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に  
此元整金と向後お出に

納延引合 右同社 後少可 乃于意  
 一 惣旨 伊年 貢金 合小 納成 日京 爲年 九立 方之 後  
 之 年 合 翌 正 二 月 在 限 塔 殿 納 之 功 亦 以 之 謂  
 元 立 延 引 之 分 之 意 及 之 吟 休 之 爲 越 後 也  
 一 後 尚 年 各 一 月 之 後 之 役 人 以 附 以 年 貢 元 立 方 并  
 伊 年 貢 金 合 小 村 方 之 持 系 一 長 陸 九 帳 伊 年 貢 金  
 不 致 答 之 以 系 之 以 之 意 以 而 年 役 人 以 附 而 之 也  
 納 方 之 後 前 系 一 色 之 以 心 也  
 右 之 通 向 一 上 中 渡 一 以 系 向 後 事 而 一 色 可 以 以 心 也  
 以上

免

又 費 月  
 海 及  
 小 國 筋  
 關 東  
 東 國

甲 斐	常 陸	相 模	赤 松	伊 勢	山 城
陸 奥	上 野	下 信	三 河	播 磨	大 和
小 羽	下 野	安 房	越 前	駿 河	持 津
	伊 豆	上 総	交 納 國 代 交 不	遠 江	河 内

一 高又万石

全六百石  
兼七拾人扶持

但走万石  
全百石  
兼拾人扶持

中国筋

備後 但馬

備中 丹後國所付取

英作 石見

一 高又万石

全六百七拾石  
兼七拾人扶持

但走万石

全百三拾二石  
兼拾人扶持

西國

高後 高前

日向 筑前 國所付取

一 高又万石

全七百石  
兼七拾人扶持

但走万石  
全百石  
兼拾人扶持

右ノ割合

言三万石より月ハ 二万石分一入用ニ下リ

言三万石余ハ 四万石分一入用ニ下リ

言四万石余ハ 五万石分一入用ニ下リ

一 又万石余ハ 五万石分一付令又指由指人扶持元一割増を以支配するに應一ツラ下リ

但 又万石以上ハ 九万石余ニハ 下リ  
又万石より 六万石分一入用米令ニ下リ

一 是々奉入用米令二月七月上月三夜ニ在渡ハ但限

一 是ニ場亦ハ入用渡ハ長ニ在場を以限ニ可相渡ハ

一 湯代及渡免又ハ 米果ハ長ニ在入用米令月割を以在勤ハ月令ニ分ニ下リ一ハ 米力為一ニ心切を以在入用米令

此令ホウハ 渡ハ

一 渡代及ハ 作付ルツ右入用月割を以渡ハ  
作付ハ月よりツラ下リ

但 渡代及ハ 作付ルツ先渡代及ニ奉一 湯助定

仕上ルハ 米々年分一入用ニ下 渡代及ハ 八割ニ奉

より一入用ニ下リ

一 上知渡免ハ 知渡ハ 後無又万石分一 渡代及上知子石  
陸元又ハ 又万石分一 湯代及子石 知渡ハ 渡ハ 米一  
分一入用ニ 後月割を以ツ増減事  
一 湯代及ハ 村引渡ハ 後 渡書 米力 米連 引渡ハ 米力

可取心法事

以上

享保十年己九月

同 十日酉年八月

今度伊奈半左衛門池田法八郎系代其支配下水磨米  
並新田檢死由一候三付名立元と申合其場一候由  
辨有一は食候は 作身其代其代其代其代其代其代其  
二所候其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其

一申其自今亦より其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
可為裁度也

八月

同 年 八月

園東より其茶種を依百姓其助候之候候其代其代其  
の申其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
候其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其  
其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其代其

之し律し規を地を悉く知しし一右に五條末に仕或ハ  
一切作らば申す而し多中由年を重入と依仕を地不悉く  
りしそ長るお止るに後瑞より右に仕形、茶籠、格別、  
年貢運上と申す或は右推仕或ハ右稱し依り物に族  
後有し由お名座し依り當年よりお悉く茶籠、格別  
仕修理能し入意は格別申す度く見ふ吟味しとて  
可相違分、関東、御所、代官申すらるる、後、以、上

八月

享保十九年八月

於湯代官而多為悉者亦有一人物も入り列江に  
お伺彼是て及ましく長少くし依り直進色し大名に  
是時考す中にお悉く人物も入り、石、以、上、願、也  
中、通、並、ら、る、ら、は、於、て、意、也

右に遠江代官たる中、彼、の、ら、意、也

同二十一年三月

完

又、貴、門  
海、右  
水、國、筋



東園

甲斐	常陸	相模	飛騨	伊勢	和氣	山城
陸奥	上野	下総	信濃	三河	播磨	大和
出羽	下野	安房	越前	駿河	近江	摂津
	伊豆	上総	武蔵	豊後	筑前	河内

一 高又万石

全六百石  
兼七指人扶持

中園

但馬	備前	備後
全六百石 兼七指人扶持	丹波	但馬
	石見	

一 高又万石

全六百石  
兼七指人扶持

但馬  
全六百石  
兼七指人扶持

西園

豊後 豊前 國津代友下  
日向 筑前

但是万石身 全百石持取  
兼持取人持取

右刻会を以

三万石身入用より一

三万石身入用より一

三万石身入用より一

一 高又万石一余ハ三万石身入用より一  
増は支取言々熟一より下也

但是万石より一は九百石余と不足下供又万石身

右是万石入用米令より下供

一 是々年入用米令二月七月十月三度より水渡但取

是より隔市ハ入用米渡は是より水場を以て強之可水渡也

一 此代友役は元又ハ米果は長ハ右入用米令月刻を以て水

月と一より下は是より水場を以て強之可水渡也

分より水渡也

一 此代友役は元又ハ米果は長ハ右入用米令月刻を以て水

作付は月より下は是より

一 上知陸元又ハ知水渡は後ハ幾又百石身入用米令月

上知水石陸元又ハ又万石身入用米令月刻を以て水

後以私馬を石分一入用し後月刻を以て之を増減事  
一 此代友以村引後、後法すおた、り是引後山御日  
この水心均事

一 此代友以法、作付の長又、の執覚、の取備、後法今  
と、この法貸後右、返納年救、ゆり、の月、お果、の、ゆり、  
分、事、指、成、の、事

右此代友法入用、今、と、と、言、又、石、分、令、六、百、兩、七、拾、人  
杖、指、え、る、の、事、向、後、事、面、の、色、下、の、事、の、事、指、え、る、事、以上

享保二十一年辰三月

同年四月

此勅定事以

一 此代友、而、後、平日、之、他、法、公、を、付、相、改、之、然、果、と、ま、こ、よ  
この中、付、私、之、謂、後、之、後、を、意、或、は、お、こ、より、乃、致、く、せ、ぬ  
か、り、り、手、控、置、る、も、祖、有、一、指、お、せ、ぬ、向、後、お、寄、  
於、中、お、進、了、を、吟、味、是、非、又、法、ひ、の、中、付、事

一 於、此、代、友、而、最、科、し、之、有、一、時、重、例、一、條、も、江、に、事、表、に  
科、人、右、寄、の、庭、村、中、お、入、り、と、意、當、者、有、一、い、る、も、密  
易、名、許、お、延、に、お、せ、ぬ、事、の、後、引、法、代、友、子、お、寄、る、後、後、  
法、為、者、お、何、の、中、事

但所代友又ハ其代友カクシ合後ハ別段ノ事

一 万事ノ入急候勿備ニ付テ様事ニモ様事付在ル  
元振以テ初心ノ事ハ高ル実意ノ事ニ遠シクモ上  
不用ノ隙を費サ要シ候節而様事ト申出ル事  
中知各有シ而可取取事

一 村ノ名ニ組取ル長為シ候所代友無油取取候  
一 甲斐以テ為沙汰之ノ事候ニ其重カク候人  
ニ為候取事

一 百姓農業を二所念カクモ一ノ事ハ波取取平日中  
有美行要メハ不及中代友自カシ候身持候事

### 万事ノ取候事

右ノ取候所代友ハ常々一ノ事ハ其且事ノ一役人トシテ取候  
有シ候事ハ其能取事ハ其可取ノ事

四月

元文二己年正月

此知是事候

所代官

大原右衛門

去年ヨリ波高取候所代友ハ其元振以テ候事ハ其  
親取事ハ其可取ノ事

入用と相平河内より 積りおしぬに申す目又  
右性是乃斗之に一和と乃筋をいぬれはとる  
本乃より里敷いれと遠いれに道も無し  
品今と有朱性是乃と和心一和を性是乃と  
仕と和品今と一五和を引取能として自今浪  
除けし場もつれおたれと右入用言つれ積り  
候をとりしと波初弁の品今と一性是乃是と一色  
危角名仕してハ難成候は色一色一言波又有一色  
候も無し一色名一色も無れ候仕はつる和と  
右の候心附る波り候

右一通可なり候

寛保元年閏二月

此勘定奉行

去冬能大坂此年貢限一取多為屋助之所候世  
此仕重取海に右如之所候也年高賣物不仕合  
及困窮の分此年貢限一取多為屋助之所候  
及困窮の分此年貢限一取多為屋助之所候  
白後右候一候心附る候仕代交其は為公可  
申候也

二月

寛保二戊年二月

河勘定奉行

一 河邊をりし河林を介百姓持心より新く伐拂  
強地新畑開け候ハ管仕り候ハ伐拂不申島郡成  
長古右強地ハ河林を成少根心をもての申百姓も  
二 為同防事

一 河邊をりし河林跡之並枝多きを下枝をりし木  
込合の申等勞透し候ハ仕事

一 山中河林大木を河用り立ふと派之並に介ハ百姓取  
り伐拂強地を開き申付て防事

一 山中より大砂押おし河川端無き難本を柱立立派を伐拂  
も後元のくりに志せり候ハ又伐拂返り候ハ申付て防事  
根入深く成候河端無き大砂押おし候ハ申付て防事  
石に懸候伐取候ハ申付て防事

二月

同三亥年二月

河勘定奉行

在り申候候ハ候事返納候ハ申付て百姓を不申候大抵事候

我波呂委有享保十八年中波呂之役減出松本成以河井  
可年債名波年と云い去年実示節如水と松別大水稀成換毛  
村吏食將債つる事は年真借の法を勝る成り年と返  
納かきみは百姓困窮其の向波は科租額一統凡水  
年損多高有る松別無例よりはと倉庫貸不取波  
方未く百姓其成事の条を統百姓は為と存  
中實是とて色不貸波の松本代友たのり年波の

二月

